

教育・文化スポーツ常任委員会 県外行政調査

1 調査日 令和元年11月5日（火）～7日（木）

2 調査の概要

11月5日（火）

（1）沖縄県議会（沖縄県那覇市）

調査内容：病弱者教育におけるICTの活用について

沖縄県は、病気等による長期欠席の児童生徒に対する支援の取り組みとして、早くから児童生徒が入院により特別支援学校に転学した場合、児童生徒や保護者等からの希望があれば、入院前に在籍していた学校とWeb会議システムを使用して、交流する取り組みを導入されていることから、これから建て替えが予定されている守山養護学校含む滋賀県の病弱者教育の参考とするため、調査を行った。



11月6日（水）

（2）アミークス国際学園（沖縄県うるま市）

調査内容：特色のある教育の取り組みについて

アミークス国際学園は、「自分で考え、学び、行動し、自分の将来を切り開く「自立した子ども」を育てる」を教育理念に、自立するためのコミュニケーション能力を育むため、英語やICTスキルを取得できる環境を整備するなど、特色のある授業を展開している。

滋賀県で、今年3月に策定した第3期滋賀県教育振興基本計画において、これからの滋賀の子どもの生きる力を育むための取り組みを進めていることから、今後の滋賀県教育の参考とするため、調査を行った。



(3) 沖縄市議会（沖縄県沖縄市）

調査内容：多目的アリーナを活用したスポーツによる地域の活性化について

沖縄県沖縄市は、Bリーグの中でも有数の人気を誇る琉球ゴールデンキングスのホームタウンであり、ホームアリーナとなる1万人規模の多目的アリーナの建設を進めており、新たなアリーナを活用して、スポーツによる地域の活性化をはかるためのさまざまな取り組みを検討、推進している。

滋賀県では2024年国スポ・障スポ開催に向けて新たに県立体育館を整備し、国スポ終了後も幅広く活用される施設とする必要があり、今後の滋賀県における取り組みの参考とするため、調査を行った。



(4) 沖縄県立博物館・美術館（沖縄県那覇市）

調査内容：施設の概要について

沖縄県立博物館は、全国でもめずらしい博物館と美術館の複合施設であり、沖縄県の歴史や文化、芸術に関する資料の収集・保存、調査研究等に取り組んでいる。

社会教育機能を充実させるだけでなく、文化観光施設として観光客などにも来館しやすい環境の整備に取り組み、平成28年度には入場者数は目標である50万人を達成していることから、今後、滋賀県で検討する文化財や美術品を守り、見せるための施設の参考とするため、調査を行った。



11月7日（木）

（4）沖縄尚学高等学校（沖縄県那覇市）

調査内容：国際バカロレア・ディプロマプログラムについて

滋賀県の県立虎姫高等学校は、今年3月に国際バカロレア校として認定され、来年度からの日本語ディプロマプログラムの開始に向け準備を進めている。

沖縄尚学高等学校では、早くから日本語ディプロマプログラムを導入されていることから、今後の滋賀県における取り組みの参考とするため、調査を行った。

